

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「共に歩む」を基に事業所の目標や個人の目標を立て取り組んでいる。又見やすい所に掲示し常に意識を持つよう心掛けている。	法人の理念「共に歩む」を基に、その人らしい生活が出来る家庭環境を作り、地域の人々との交流を深め、残された人生を充実させ、日々の生活が利用者にとって満足出来るよう支援することを具体化し、今年度の部門目標は「運営推進会議を充実させ、地域の力をグループホームの運営に活かす」として定め、地域との関わりを深めようと努力している。コンセプトの「希望におきて感謝に眠る一日の幸を応援いたします」を常に意識し、理念及び目標を事務所・玄関・リビングなどに掲示し、日々確認しながら実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様の高齢化に伴い、地域での催し物への参加は難しくなっているが、地区の子供みこしが立ち寄ってくださる等の交流はある。又、地区の文化祭へ折り紙による作品の展示依頼があり、数点の参加をさせて頂いた。	区費を支払い、地区への寄付も行っている。年1回、市全体のゴミ拾いをするエコウォークにも職員が参加している。オカリナや二胡の演奏などのボランティアの来訪があり利用者も楽しみにしている。また、専門学校福祉科の実習生の受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し地域の方々と認知症に関する話し合いの場があれば参加させて頂きたい旨を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し利用者様の状況や活動報告を、写真入りの資料と共にわかり易く説明し行っている。出席者全員から意見、要望を頂き、それを基にサービスの向上に努めている。	家族代表、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、ユニットリーダー、職員などにより2ヶ月に1回開かれている。利用者の状況報告などを行い、参加者からはホームと地元との係わり合いについて他、意見をいただいている。会議終了時に次の開催日を決めているが、都合等もあるため開催日近くなってから正式な通知を出し参加を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に情報を提供し取り組み等を伝えている。又市の介護相談員の訪問が年4回ほどあり意見を伺い情報交換を行っている。	年4回、市から介護相談員の来訪があり、後日、市から内容の報告がある。運営推進会議にも地域包括支援センター職員が参加しており、利用者及び利用希望者も90歳台の方が多く、認知度も高くなっていることから密に意見交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	意識を常に持ちケアを実践している。しかしリスクの高い箇所の施錠はする事もある。施設内の委員の下研修を行い理解を深めている。	身体拘束については年1回法人による研修会も開かれており、職員は十分理解している。ホームの隣は崖になっている所があるため玄関の鍵をかけることもあるが、リビングから各ユニットのウッドデッキ、中庭等には自由に入出入りが出来るようになっており、日当たりも良く日向ぼっこが楽しめている。	

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議に於いて接遇委員の下、話し合いを行っている。一人一人が常に意識を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議に於いて「成年後見人制度」を理解し学ぶ機会を持っている。又パンフレット等の閲覧にて活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類の提示を行い十分な時間をかけて説明し、ご理解を頂いている。又不安や疑問点等の質問をしやすい雰囲気や場所づくりにも心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催しご意見や要望をお聞きしている。施設全体で年1回「ぶどう狩り」ユニット毎に年1回「食事会」を開催。頂いたご意見や要望は職員に周知し対応している。	運営法人の役付者も参加し家族との食事会が開かれており、その際に意見や要望をお聞きしている。利用者も重度の方が多くなり、自分の要望が言える方は少なくなりつつあり、日頃の様子や仕草などにより察知するよう心がけている。「さとび便り」を年4回発行し家族には月々の請求書に同封し、日頃の様子を知らせたり、新人職員・人事異動などを紹介し意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開催している職員会議に於いて意見の交換を行っている。提案された意見等はすばやく対応している。又ほぼ毎日ミニミーティングが行われており意見を出せる場となっている。	毎日昼休みにミーティングを開き、利用者の情報交換を行い、職員の意見・要望等も同時に聞いている。職員個々には勤務体制を見ながら管理者が意見を聞くようにしている。法人全体の目標や部門目標に合わせ個人目標を立てており、半年に1回管理者による面接とともに見直しもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力や勤務状況を把握し意欲向上に繋がる様努めている。又個人目標の状況や自己点検表からも把握できる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を積極的に活用し、力量に応じた研修への参加を促し参加している。出来るだけ多くの参加が出来る様、勤務の調整も行っている。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会への参加を行っている。日頃の活動報告や勉強会などを行いサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人やご家族からお話を伺い、そのご意見に副える様努めている。普段より、話しやすい環境づくりにも努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安、要望にしっかりと耳を傾け、把握を行いそれに添える様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査での資料を参考にしたり、御本人やご家族の意見を重視しサービス計画を作成する。それに基づきサービスを実施している。又、他のサービスの紹介や必要性等をお話する事も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人の過ごされて来た、暮らし、環境等を理解し尊厳をもって対応している。興味のある話題の提供により良い関係づくりが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「ご家族だから出来る事」「施設だから出来る事」をお互いに共有し、共に御本人を支えて行く関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の訪問や電話、手紙による関係継続が多くある。ご本人の意思を尊重し関係が途切れない様配慮している。	毎週定期的に家族と外出される方や外食される方がいる。以前は外泊されていた利用者もいたが重度になり外泊は少なくなった。馴染みの美容院を利用されている方やお花のお弟子さんの訪問を受ける利用者など、利用前からの継続した関係が今でも続いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員間の情報提供により利用者様同士の関係を把握している。その情報を基に中間的な立場に立って関わりを持っている。橋渡し役になる事もある。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、希望される方には相談や支援を行う。入院された方には状況により相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の意向に添った暮らしが出来る様支援している。自分の意思を表現出来ない方には意向や思いを推測し少しでも自分らしい暮らしに近づく様支援している。	重度の方が多くなり、要望等を表せる方が少なく、自主的な作業は少なくなってきた。職員は一人ひとりに寄り添いながら、職員の都合で進めるのではなく希望をお聞きしている。ホーム内の運動会では利用者希望の出前のお弁当を取り、全員で楽しむことが出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人やご家族から情報を頂き、その情報のもとミーティングを行い、暮らしの把握に努めている。又これまでの経過についても意見を出し合い検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほぼ毎日、昼休みに情報交換を行い、現状の利用者様の状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、ご家族の意志、意向をお聞きし、医師や看護師の意見を取り入れサービス計画の原案を作成する。その後計画作成担当者が検討し作成している。	利用者の居室の状態を把握するため職員は1名から2名の利用者を担当している。介護計画は日々の記録を基にカンファレンスを開き、3ヶ月に1回の見直しが行われている。状態に変化が生じた場合にはその都度見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カードックスや申し送りノート等に個別で記入し職員全員が内容を共有している。実践結果等は話し合い介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、御本人の一番望まれるサービスの提供に心掛けている。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域運営推進委員や市の相談員の訪問を受け情報交換を行っている。又その際には利用者様とお話出来る場の提供もしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、協力医療機関が、かかりつけ医となる事を説明し同意を得ているが、これまでの医療機関での受診を希望される場合は受診が出来るよう支援している。	契約時に協力医療機関があることを説明の上、かかりつけ医として選んでいただいている。利用前からのかかりつけ医を受診する際には家族に協力をお願いしている。毎週月曜日には協力医による往診があり、火・水・木曜日には訪問看護師による健康管理と相談が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時に気づいた点を報告相談し、アドバイスを受け健康管理を行っている。適切な処置を受けられている。又気づきや変化は、すばやく情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人グループの医療関係者を含め入院時の医療関係者とは情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人、ご家族の意志を尊重し、医師や看護師との相談を重ね、方針を決めている。又ここでの生活を一日でも長く安楽に送られる様支援している。	法人全体で統一した「重度化及び終末期に向けた指針」が作成されている。状態によっては協力医による往診が毎日あり、開設以来5名の方の看取りを行った。内2名は今年家族の同意により看取られた。昨年看取りのための同意書をいただいたが、献身的な介護により回復し、お元気に生活されている方もおり、医療と看護、介護との連携がとれ一丸となって支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に訓練は行えていないが、救命講習等に参加した職員の下、学習している。看護師から情報を得る事もある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得た訓練は年2回、地震想定訓練は年1回行い、ミニ訓練は毎月行っている。色々の状況により判断が出来るよう訓練を行っている。又運営推進会議を通し、地元消防団への協力もお願いしている。 (非難場所に「さとび」の利用も提案している)	年2回総合訓練を実施している。内1回は地震想定とした。夜間想定も1回行っている。毎月ミニ訓練を行い、消火訓練や連絡網訓練などを行っている。車椅子利用者が増えていることから、まずは利用者を外に出すことを優先している。スプリンクラーや自動火災報知機なども設置されている。食料品の備蓄は3日分ほど用意されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応に心がけている。自己チェックシートを用い、行動を振り返っている。又接遇委員の下施設内研修も行っている。	利用者を「〇〇さん」ではなく「〇〇様」に統一しており、「様」に慣れることで会話も言葉も自然と丁寧になるという。近くの大学で開かれた介護士のためのキャリアアップ研修7回コースに法人として参加し接遇他について職員に周知している。自己チェックシートも半期に1回行われており、各自振り返りの機会を設けることで常に初心に帰り、利用者の尊厳及びプライバシー保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さりげなく関わり、希望を訴えやすい状況になる様心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	御本人のペースでの動きを優先している。職員側の都合になる時は、ゆっくりお話し、理解して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみには常に心掛けている。おしゃれに対する意識が高まる様声掛けし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの状態に合わせている。医師や栄養士からのアドバイスが必要な方も居り、それぞれに応じた対応となっている。	コンセプトに「食(心を豊かにする食事の提供を大切にします。)」を掲げており、毎食毎に写真を撮り記録している。刻み食であっても法人で荒刻みなどの刻み方を段階ごとに統一し、一品ごとに丁寧に調理されており、食事を楽しめるような細かな工夫が見られる。利用者に柿の皮むきのお手伝いをさせていただいた干し柿がそろそろ食べごろを迎えていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて支援している。医師や栄養士からのアドバイスが必要な方もおり、それぞれに応じた対応となっている。食事摂取量や水分摂取量の記入も行い状況を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個別の口腔ケアを行うよう徹底している。一人ひとりの状態により介助法や適切な歯ブラシの提供を行い支援している。		

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンによりトイレ誘導を行っている。介助に係わる時間が増えているが、職員は個々の状況を把握し統一した介助が出来る様心掛けている。又個々の排泄量や時間帯によりパットの種類を換える等の支援も行っている。	2ユニット中90歳代が11名で平均年齢も90歳という高齢化に伴い重度化しており、排泄について自立している方はいない。排泄チェック表により個々のパターンを把握し、定期的に声かけをトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や運動にて予防に心掛けてはいるが、運動量減っており、薬での排便を余儀なくされる事も多くなっている。医師、看護師と常に連携をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日を入浴日に当てている。この間に2回入浴して頂く様にしている。体調やタイミングをお聞きし無理強いはいしない。	入浴日は週4日としており、その中で各利用者2回の入浴を基本としている。重度化に伴い入浴拒否されることも多くなっている。ターミナル期は看護師のお手伝いをいただき清拭等を行っている。また、ゆず湯等で入浴を楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各人、ご自由な場所にて休まれている。職員は常に状況を見守っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法、用量については常に確認し、理解している。薬の変更があった場合は、職員全員に速やかに周知し徹底している。又、日常の変化を医師に報告し、指示の下、服薬の調整を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の情報を基に興味のある話題を提供し、お誘いをしている。最初から最後まで参加はなかなか難しくなっており、一部分だけでも参加して頂ける様な支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の体調、体力に合わせた行動となっている。又比較的自立されている方からは、「喫茶店に行きコーヒーやケーキを食べたい」等の具体的な要望もあり、職員と出かける事もある。ドライブ等の外出をする事もある。ご家族にも協力して頂き出来るだけ外出の機会を持つよう支援している。	隣接の法人内の通所介護サービスより日中の空いている時間に車をお借りし、お花見や紅葉狩り、家族会も兼ねたぶどう狩りなどに外出し、お弁当をとるなどして楽しんでいる。毎週、家族と外出されている方もいる。	

グループホームさとび・東雲棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設側での管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の了解の下、利用者様の要望をお聞きし対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはゆったりととってあり、季節感を感じる物の展示などにて、心地よく過ごして頂く様、工夫している。又、危険因子となる物はないか？等、環境整備にも心がけている。	キッチン兼共有スペースは天井も高く、大きな窓からは日差しが差し込み冬でも暖房が要らないくらい暖かく、日脚の長い冬場は日よけのスクリーンを使用するようである。キッチンのカウンター内も利用者全員で食事が出来る広さでゆったりとしている。玄関には腰をおろしたり荷物を置くなど、色々に利用できる多目的なスペースが用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、ソファ、テーブル、テレビ等を配置し、独りでも多数でも過ごして頂ける様にしている。利用者様はその時々により思い思いの方や場所にて自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より愛用された物をお持ちになっておられる方が多く、それぞれの特徴が活かされた居室となっている。その気持ちを配慮し、居心地良く生活出来る様支援している。	居室は掃き出し窓になっており大変明るく、物入れと洗面台が備えられている。使い慣れた家具などが自由に持ち込まれ自分らしい居室づくりがされていた。ベットも個々の状態により配置が検討され、利用しやすく、居心地よく過ごせるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備に心掛け、一人ひとりの行動が安全に行える様工夫している。又、一人ひとりに合った声掛けや促しも行っている。		